

## 58. 幼児期は心の冒険の時代 ～親としての心構え～

2014.11.1 遠藤清賢



私たちは厳しく育てるということを子どもに忍耐させ努力させることだと思っています。子どもが失敗した時その失敗した原因を探させ、再び失敗しないように注意することや、目的を持たせそれができるまで努力させることが厳しさであると考えられるかもしれません。子どもに対して妥協を許さず、完璧を求めることが厳しい子育てだと考えられると思います。確かに、安全に生きるために厳しく守らなければならないことはありますが、完璧を求めれば求めるほど、親自身の生活実践の有り方が問われてきます。子どもに厳しくすることは、親自身も厳しく自分の有り方や生き方を問われるのだと思います。これを子どもが大人になるまで継続することは容易な事ではありません。厳しさは子どもよりも親の方が努力をしなければなりません。歌舞伎やスポーツ、音楽の世界等で特別に何か優れた能力の人を育てている方たちはそのように生きていると思います。しかし、これは特別なことだと思います。普通は、子どもを育てることは、厳しさや苦しさではなく、楽しい生活なのです。子供たちは自分が楽しいと思うことに熱中します。親もこれを一緒に楽しむことができるととても良い子育てになると思います。

乳幼児期 0～3 歳前半くらいまでの子は親の感情は分かりますが、親の言いつけは殆ど理解できません。安全であれば見守るだけでですが、危険な行動は親が制限してあげなければなりません。この時期は出来るだけ肯定的に対応することが良いと思います。総じて、危険な事、人を傷付けるようなこと以外は、子どもの思い通りに対応してあげることが良いと思います。会話ができるようになり、ある程度大人の言葉が理解できるようになったら、良いこと、悪い事を伝えてあげる必要が出てきます。何度も何度も繰り返して伝えることが大切です。親は出来るだけ忍耐強く冷静に対応すべきですが、時には感情的になってしまうこともあります。仕方がないかもしれません。しかし、これを頻繁に繰り返してしまうと子どもが委縮するだけです、出来るなら感情的に叱ることはしない方が良いでしょう。親の注意や指摘、そして感情的な対応がとて頻繁になると子どもは自己防衛のために嘘が多くなり、親に自分の本心を伝えることができなくなるのです。この時期に我ままで、自分勝手な行動をしていたとしても肯定的に育てられた子は親の心を理解し、親を信頼して成長することができます。この時期の子がその子の本当の姿ではないのです。幼児期の子どもたちは本当の自分を見つけ出すための精神的な冒険をしている時代なのです。親は子の冒険を、ただいけない行動をするからとか、反抗的だから悪い子だと単純に判断するのではなく、優しく見守り、健康で、良く眠り、良く食べ、一時一時を楽しんで過ごすことができるように支えてあげることが大切なのです。

子どもたちが自分は親に信頼されている、大切にされているということは、具体的には、子どもの話を良く聴いてあげるとか、成功した時楽しいことがあった時一緒に喜び一緒に楽しむこととか、子どもの好きな食事を用意してあげる等、子どもと気持ちを共有しながら子どもとの生活を楽しむことだと思います。そうすることで子どもたちは一人の人間として良く生きることが出来る力が備わるのだと思います。

《いがぐりぼうや材料 5 個分》  
さつまいも 150g、  
砂糖大さじ 2、  
スキムミルク大さじ 1、  
バター 10g、卵 1/2 個、  
ソーメン 25g、  
黒ゴマ大さじ 1 強、揚げ油

### 《作り方》

- ① ソーメンを細かく碎き、黒ゴマと合わせて置く。
- ② さつま芋は皮をむいて茹でる。水気を切り、つぶす。
- ③ ②に砂糖、スキムミルク、バターを入れて混ぜ合わせる。
- ④ ③の生地を 5 等分にして丸める。  
丸めたら卵、①のソーメン黒ゴマ和えをつけ油で揚げる。



奥州市江刺区男石 1 丁目 3-5      社会福祉法人 江刺保育園 子育て支援事業  
電話 0197-35-1522      ファックス 0197-35-1741  
子育て広場「友遊広場」専用電話 090-7327-9686

E メール [esahoiku@pup.waiwai-net.ne.jp](mailto:esahoiku@pup.waiwai-net.ne.jp)      ホームページ <http://www.esashihoikuen.com/>